

「まちづくりの現場から」

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを、毎月シリーズで紹介するものです。

今月は、「鳥獣被害対策」の現場からお届けします。

鳥獣被害に強い農業に向けて

増え続ける被害

近年、日本各地で野生鳥獣による被害が大きな社会問題になっています。上毛町でも山間部を中心に出没し、農作物を荒らしたり、人に危害を加えたりする問題が発生しています。その代表格がシカやイノシシなどで、水稲・大豆などの作物に深刻な被害をもたらし、その被害は年々増加しています。

変貌した被害の原因

野生鳥獣による被害は、農耕民族である日本では昔から見られ、昔話には、サルやシカ、イノシシ、クマなどが数多く登場します。しかし、以前は里山と接し、林に囲まれた耕作地に顕著であった被害が、近年はその範囲を広げています。原因の一つに、暖冬などの環境の変化で、生息適地が拡大し、個体数を増加したことがあげられます。また、農家の担い手不足による耕作放棄地の増加も大きな原因の一つです。これは、野生鳥獣にとって格好の生息場所や隠れ家となるため、農地に出没しやすくなります。

鳥獣対策基礎知識

できることからはじめよう

野生鳥獣の駆除や防除対策は、有害鳥獣捕獲員や役場に任せておけば良いと思っていないでしょうか。病害虫の防除のために、自分たちで農薬などを散布することと同じで、対策をより効果的にするには自分たちの問題であると認識し、自ら取り組むことが重要です。町では、防護柵や電気柵の資材購入に要する経費の一部を助成していますので、この制度を活用し、自分の農地は自分で守るよう心がけてください。

集落が餌場になっていませんか

野菜くずや生ごみ、収穫しないままの果樹などは、野生鳥獣のごちそうです。これは知らず知らずのうちに「餌付け」をしているようなもので、被害が起こるのは、集落内のこうした餌が原因です。まずは、集落を野生鳥獣の餌場としないため、環境を適切に管理することが大切です。

複数の対策を根気よく

野生鳥獣は、人間が思っている以上に学習能力が高く利口です。例えば電気柵の設置だけでなく、さらに内側をトタン板で囲い農作物を見えなくするなど、複数の対策を組み合わせると効果がより高くなります。しかし、慣れが生じると効果が薄れるため、新しい防除策を工夫することも大切です。

野生動物が嫌がる環境づくり

野生鳥獣が、人里に出ることはリスクがあります。耕作放棄地や草むらなどがなければ、容易に隠れることができず近づきにくくなります。鳥獣被害対策をより効果的にするには、草刈りをこまめにするなどの適切な農地管理を行い、生態を熟知した方法によって人里に近づけない環境をつくるのが大切です。

立ち向かう鳥獣ハンター

増え続ける鳥獣被害を防止するためには、鳥獣の絶対数を減少させなければなりません。町では有害鳥獣捕獲員16人銃器使用者10人、わな使用者10人を中心に捕獲活動を展開してきました。

有害鳥獣捕獲員は、主に週末の早朝、銃器を使用し、イノシシ、シカ、カラスなどを数多く捕獲しています。また、農家が設置している防護ネットやのり網などにシカが絡んだ場合にも処理しています。近年は、個体数の増加に伴い、捕獲数も年々増加しています。

しかし、高齢化に伴う、狩猟人口減少のため、鳥獣の増加に追いつかない状況となっており、後継者の育成が急務となっています。

■ 有害鳥獣捕獲員の鳥獣捕獲状況

	イノシシ	シカ	カラス	ドバト
平成21年度	41 頭	21 頭	51 羽	9 羽
平成22年度	46 頭	26 頭	73 羽	34 羽



箱わなの写真

新たな体制で鳥獣被害対策に取り組む

総合的な被害防止体系を確立することで、被害の軽減を図ることを目的に平成23年7月「上毛町鳥獣被害防止対策協議会」を設立しました。

侵入防護対策や捕獲体制を強化します

- 全町的な被害現状や鳥獣の出没傾向などを把握し、情報共有することで地域一体となって取り組むことが可能となり、効率的な被害防止対策が期待できます。
- 箱なわなどの捕獲器を整備し、安全で効果的な捕獲を推進します。

- 鳥獣被害対策先進地を視察し、効果的な侵入防護対策・捕獲方法を学び、被害防止対策の強化を図ります。また、箱わなの使用方法などの講習会を開催し、正しい知識を身に付け、効果的な予防に努めます。

補助事業を活用した取り組みを推進します

- 有害鳥獣捕獲員の確保のため、箱わな免許の取得費用を助成します。本年度は6名の方が箱わな免許を取得し、捕獲員に加わる予定です。地域の農産物被害防止への活躍が期待されます。

- 現在、町で行っている防護柵の設置費の助成とは別に「集落ぐるみ」での広域的で効果的な防護柵設置の取り組みについても本協議会で協議を行い、推進していきます。

上毛町鳥獣被害防止対策協議会

岸本 正利氏	福岡豊築農協築東グリーンセンター長
宮元 隆弘氏	豊築森林組合東部支所長
上西 勝昭氏	猟友会
小出 石人志氏	
中森 孝氏(尺高)	
山下 正吉氏(東上)	知識経験を有する者
岩花 太美氏(西友校)	
薬丸 忠夫氏(上唐原)	



上毛町鳥獣被害防止対策協議会発足式



防護柵の様子